

だるまの会 (音訳ボランティア)

この会は平成9年に音訳養成講座を受けたもののうち6名ではじめました。平成13年からは第2次養成講座を受けた人も加わり9名で活動をしていました。旧坂井町時代は「広報さかい」を毎月読み、録音して目の不自由な方たちに送っていました。坂井市になってから1年ほど休んでいたのですが市議会だよりを読むことになり、5名で再出発をしました。音訳とは文字をそのまま音にするということで感情を入れず淡々と読むことが大切です。ニュースを読むアナウンサーのように読みなさいと言われるそうですが、素人の我々にはなかなか難しいことです。また、音訳独特の表現方法があり、その決まりを常に学習練習することが必要です。表やグラフ、写真も言葉で表現します。現在かかえている問題は今まではテープに録音していたのですが、もう時代遅れになり、録音のための機械が故障しても修理ができません。パソコンを使う新しい方法に移行しなくてはならないのですが、機械の購入とかパソコンの操作ができるか等いろいろと不安な課題もあります。



↑ 講師を招いて音訳の勉強会

↓ 録音機材



↑ 市議会だよりを録音している様子

『音訳ボランティアグループ』の抱える課題と 今後の活動に向けた取り組み

坂井市内で音訳ボランティアの活動をしている丸岡町の「すずしろの会」と坂井町の「だるまの会」では現在カセットテープに録音して視覚障害者の方に情報提供をする活動を行っていますが、録音機器の老朽化やこれからの利用者の拡大に向けてCD化を検討したいとのご希望がありました。

そこで坂井市社協ボランティア・市民活動センターでは、この2つのボランティアグループの代表の方々と県視覚障害者福祉協会情報提供センターに見学に行き、CDへの録音に必要な機材がどんなものか、またその購入の方法等について教わってきました。

また後日『音訳ボランティアグループの連絡会』を開催し、見学の報告と今後の活動にむけてどう取り組んでいくかを協議しました。

